

1998年(平成10年)2月16日(月曜日)

)))) 経済学者を目指した留学先で運命が変わった



長野五輪の記念モニュメントを制作したカナダ在住の彫刻家

さいとう 斎藤

さとし 智さん



歓声に沸くボブスレー・リ

ュージュ会場。その一角に高さ1・8メートルの御影石を2枚組み合わせた石彫モニュメントが、凛と建つ。「赤時」と題する最近作。「これで伊那市に住む95歳になる母にも、反対していた息子の仕事を少しは分かってもらえたかもしれない」と苦笑する。

37年前、計量経済学を学ぶにマギル大学院に留学した。ところが、雄大なカナダの自然の中で詩人や画家らに

囲まれて生活するうちに、いつしか陶芸の道へ転じてしまった。「隣の米国社会の発展ぶりを目の当たりにし、僕が経済をやるのがやるまいが関係ない、と感じたんです」

陶芸家のルイズ夫人と結婚。帰国して栃木・益子で島岡達三氏や故浜田庄司氏らと親交を結び、夫妻で陶芸を共同制作、一家を成すまでに。が、満足せず、土の彫刻では表し切れないポリウムを求めて石彫へと移った。ケベック州の寒村に約50畝の農地を求めてアトリエを建てたのは、ちょうど30年前のこと。

空間のはざまに「美しくもまた静かで力強いもの」を追い求めてきた。「定収がなく、家内には苦勞を掛けた。大学の先生でもしていればよいのに」ともいわれました。でも、田舎暮らしをしていると、食べ物味わいは深く、人に会う喜びも強いのです」

自然と対峙する感性が生み出す作品は今、都会人の心をつき動かす。国内各地に展示され、東京・恵比寿ガーデンプレイスで開催中の個展も好評だ。「彫れば彫るほど美しいフォルムが生まれてくる。これからです」

文・編集委員 三木 賢治  
写真・同 荒牧万佐行

長野県出身。慶応大経済学部卒。ブロンフマン大賞など受賞。王室カナダ芸術院会員。62歳。